—詐偽(いつわり)の福音—

現代の異端

THE CHRISTIAN
AND
THE CULTS

一九八二年八月一日—八日
サニーサイド・バイブルキャンプ

講師　横山赳夫牧師

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-1
www.nikkeimuseum.org

「聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう。」ユダ 3節

—詐偽の福音—

現代の異端

横山 赳夫※

※ バンクーバー日系キリスト教会牧師　トロント・バイブル・カレッジ卒
カナダ日系人福音主義クリスチャン・ソサイエティ理事

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-2
www.nikkeimuseum.org

序

本講義録は、1982年度の「カナダ日系人福音主義クリスチャン・ソサイエティ」(JCECS)のサニーサイド・バイブル・キャンプの日本語部のために収録したものです。

昨年のキャンプにおいては「キリストの再臨」を学ぶ機会を得ましたが、それを学びつつありますうちに本年再び私が講師として選ばれたならば「異端」について学んでみようと風に考えておりました。ただし本講義録はキャンプの三か月前から準備を始めたものでありますため、色々な参考文献から材料を集めてきたのでさながら継ぎはぎだらけの感を免れませんが、やがては「キリストの再臨」とともにまとまったものに改めて行きたいと考えております。

「異端」とは日本国語大辞典によると「正統からはずれていること。思想、信仰、学説などある同一範疇(はんちゅう)のことがらにつき多数の者に一般的に承認されている正統に対して、それ以外の特殊な少数の者によって信じられ主張されること。またそのもの、あるいはそのような人」と解釈し、又「異端は正統と根本を共通にしていてキリストと仏教のような異教の関係とは異なる」と補注がほどこされております。従って「キリスト教異端」とは「似て非なるキリスト教」ということができるでしょう。

英語では「異端」という語は通常"heresy"とか"cult"とかの語を用いております。heresyは正統派の信条に反する異説、特にカトリックを正統派と見た場合、それに反する説をとなえたものを宗教裁判の結果「異端」と宣告する時に使われた語であり、その限りにおいては、プロテスタントもカトリックから見ますとheresyであって、現に

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-3
www.nikkeimuseum.org

西洋史を見るとプロテスタントはカトリックから1401年に異端の宣告を受けています。Cultは元々崇拝とか礼拝とかの語で、本来の意味は「伝統的な組織宗教団体に対立する新宗教運動の中にゆるやかな組織性をもつ集団のこと」であって言葉としてはCultの方がheresyよりも新しく、本講義録では殆んど過去1,2世紀の間に発生した異端を取扱うことにしましたのでCultの方が本書にとっては適切な語であるように思われます。

上記のことから本講義においては異端には触れますが異教については触れないことにします。又われら日系人に影響力の多い異端に特に力点を置いて学ぶことにし、同時に日本における布教状態、教勢等についても簡単に触れてみました。

結論として異端の発生する原因、異端に対してクリスチャンはどうあるべきかにも触れ、歴史的に古くから使われている使徒信条、ニカヤ信条、又われらの「カナダ日系人福音主義クリスチャン・ソサイエティ」の信仰個条を掲載してみました。

願わくは本講義録を通じてキャンプに出席された諸兄姉はもとよりカナダに在住する福音主義クリスチャン諸兄姉が「聖徒にかつてたび伝えられた信仰のために戦う」(ユダ3節)ために強く立っていただくよう願うものであります。

主の祝福を祈りつつ

リッチモンドにて
横山趙夫

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-4
www.nikkeimuseum.org

目　次

頁
第一講　ユニテリヤン（自由宗教連盟）------ 1
第二講　クリスチャン・サイエンス（キリスト教科学）--- 4
第三講　エホバの証人（ものみの塔聖書冊子協会）- 6
第四講　心霊派---------- 10
第五講　アームストロング派（世界的教会）-------- 13
第六講　モルモン教（末日聖徒イエス・キリスト教会）--- 16
第七講　セブンスデー・アドベンチスト---------- 20
第八講　近代主義・自由主義神学---------- 26
第九講　世界基督教統一神霊協会---------- 30
第十講　カトリックの教義と聖書の教え---------- 36
第十一講　異端発生の原因とクリスチャンの態度-------- 45

付録1.　信条及び信仰個条---------- 47
付録2　引用文献---------- 48

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-5
www.nikkeimuseum.org

第一講　ユニテリヤン

ユニテリヤンとは、唯一の神の存在は信ずるが、キリストと聖霊の神性を信ずる（トリニテリヤン、三位一体）者達に反対する団体、グループを呼ぶ。このユニテリヤンの教えは初代教会においてはイエス・キリストの神性を否定することから始まったのである。従って、現代の異端の起源を歴史的に配列するならばこのユニテリヤンが最古のものと考えられる。使徒ヨハネは、キリスト教の第一世紀が終らないうちにこの問題を取り扱わねばならなかった。「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです」（Ⅰヨハネ4, 2-3）。それからおよそ三百年後に、教会は再びニカヤ会議（325年AD）において、この問題に直面した。それは当時アリウス説として知られていたものである。

ユニテリヤンの教義は、使徒時代にまでさかのぼるものであるが、宗教改革までは目立った代表的神学者、著作家はなかった。最初の有名な著作家は、マルケン・セラリウス（1499－1564年）であった。彼はマルケン・ルーテルの友人であった。イタリヤではファウスト・ソッイニ（1939－1604年）がユニテリヤンであった。彼は大抵の人にソシニウスとして知られており、彼の異端は、ソシニアニズムと呼ばれている。

その後ユニテリヤンはポーランド及びハンガリーに広がり、オランダを経て英国にも伝えられた。これがアメリカに見られるようになったのは18世紀になってからである。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-6
www.nikkeimuseum.org

アメリカのユニテリヤンは、おそらくアメリカ合衆国に固有のものであったであろう。ニューイングランド諸州の極端なカルビン主義や、厳格な清教主義に対する反動であった。事実最初のユニテリヤンは、"アルメニヤン"と呼ばれた。彼らの神学がアルミニウス派の教義であったからではなく、彼らがカルビン主義に反対していたので、そう呼ばれたのである。

19世紀にドイツに根をおろした近代主義に力を得てアメリカのユニテリヤンは繁栄した。そして1825年にアメリカ・ユニテリヤン協会が設立された。1865年にはナショナル・カンフェレンスが設置された。そして1960年には、ユニテリヤンはユニバーサリストと合併した。ユニテリヤンの機関誌は、ザ・ユニテリヤン・レジスターと呼ばれていたのであり、ユニバーサリストは、ザ・ユニバーサリスト・リーダーという雑誌を発行していた。1960年の合併の結果、ザ・レジスター・リーダーという雑誌を共同で発行することになった。

今日アメリカ合衆国には、約157,000人のユニテリヤンがおり、1,012の教会で礼拝を守っている。カナダには、約20,000人のユニテリヤンがいる。

ユニテリヤンの教理の特色

(1) ユニテリヤンは、三位一体とイエス・キリストの神性の教理を否認する。

(2) ユニテリヤンは、処女降誕の教理と信条とを否定する。

(3) ユニテリヤンは、イエスをユダヤ人が待望し、クリスチャンが信じているようなメシヤとは信じていない。又イエスは、神が受肉したもの、三位一体の第二位、終末の時に「生きている者と死んだ者とを審くために来る最後の審判者であるキリスト」などとは信じていない。

(4) ユニテリヤンは、悪を認め、その悪の多くに対して人間の責任を認めるが、神が人間の全的堕落の故にその独子を世に降し、罪人のために死なしめたという教理は、けしからん、非聖書的、非倫理的な教え

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-7
www.nikkeimuseum.org

であると信じている。

(5) ユニテリヤンは、人格の発展による救を信じる。神の助けが、神にすべての重荷をゆだねる者に来るとは思わない。

(6) ユニテリヤンは、天国が罪を贖われ、救われた者の永遠の喜びにかたる輝かしい光の国とは信じない。又地獄は永劫に苦悩の充ちた悪魔の住む暗黒の国とは信じない。

(7) ユニテリヤンは、聖書が神の霊感によって書かれたものとは信じない。

上記のように彼らはキリスト教会によって歴史的に保持されてきたすべての教理に対して否定的な態度を取っている。

ユニテリヤンの日本における活動

1887年（明治20年）に米国ユニテリヤンの最初の宣教師A.M.ナップが日本に渡り、1889年（明治22年）には、ユニバーサリストの最初の宣教師G.L.ペリンが来朝して一時世の注目を浴びたが、彼らは、教会人からは哲学の一種と見なされた程度で教会の信仰を動揺させるには足りなかった。

現在の日本におけるユニテリヤンの名称は、「日本自由宗教連盟」であり、その教義は、

「自由基督教は、使徒信条、三位一体説、聖書を神の啓示とみて誤りなしとする説、キリストの神性、処女降誕、奇跡、復活、再臨、贖罪論、肉体の復活、教会の教権等一切を否定し、イエスを人間中の偉大な指導者と見て、その教えが他の宗教にまさって真理に近い故にその教えを信仰するという立場に立っている。従って本連盟は進歩的な他宗教を包含し得る建前に立って組織されている」

教会は、東京に2か所。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-8
www.nikkeimuseum.org

第二講　クリスチャン・サイエンス

クリスチャン・サイエンスの創設者は、メリー・ベーカー・エディ（1821～1910年）である。彼女はニュー・イングランドの貧しい家から身を起こし、89才まで生き、巨万の富をかちえた女性である。少女時代、彼女はやゝ虚弱であり、青年期になってからは催眠術によく反応した（神経狂暴からの強烈な痙攣と感情的昏倒を医す催眠術）といわれている。彼女は89年の生涯において三回結婚している。彼女が45才の時（1866年2月1日）、彼女は氷の上でころんで背骨を打ち非常に苦しんだことがあったが、メーン州のポートランドで精神科医をしていたフィネアス P. クインビーをたずね、三日のうちに奇蹟的にいやされた。クインビーは医薬を用いないで病気を療す医者であったが、この時のいやしがクリスチャン・サイエンスの基礎となったといわれている。

クリスチャン・サイエンスの教科書、「科学と健康－付聖書の鍵」は1875年、彼女が54才の時に完成された。その後58才の時彼女は、クリスチャン・サイエンス教会を設立した。

クリスチャン・サイエンスは、非常に数多くの印刷物を出版しており、その中でも日刊紙である「クリスチャン・サイエンス・モニター」は知識人の読む新聞で、最も権威のある新聞であるとされている。「サイエンス」という名称をもっているが、実際はその逆で極めて非科学的な迷信的異端なのである。

クリスチャン・サイエンスの教理の特色

クリスチャン・サイエンスは、神の三位一体、イエス・キリストの神性、処女降誕、身代りの贖い、肉体の復活を否定し、罪、贖罪、祈り、永遠の報いなどの歴史的キリスト教の教理を否認する。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-9
www.nikkeimuseum.org

(1) クリスチャン・サイエンスの土台となっているものは唯心論的な哲学であり、物質存在の否定である。彼らは、物質はあるように見えるが実際には存在しない、と信じている。

(2) クリスチャン・サイエンスは、病気の存在を信じない。

(3) クリスチャン・サイエンスにおいては、神は、どのような意味からも人格的な神ではない。彼らは神を原則、目に見えない善意、心などと信じている。

(4) クリスチャン・サイエンスは、聖書的な贖罪の教理を否定する。

(5) クリスチャン・サイエンスは、罪の存在を認めようとしない。

(6) クリスチャン・サイエンスは、イエスを人としてではなく観念として考える。そしてキリストとイエスとを区別する。

クリスチャン・サイエンスの日本における活動

基督教年鑑（1995年版）には沿革が次のように記されている。

「キリスト教科学の宗教としての権威は、聖書に基づいており、その教えは、キリスト教科学の発見者・創始者であるメリー・ベーカー・エディの著書「科学と健康－付聖書の鍵」によって公にされています。キリスト教科学の独特な点は、罪はもとより肉体の病気も霊的方法だけで療すことです。科学者キリスト教は、1879年（明治12年）にエディ夫人と15人の生徒とが「主イエスの言葉と行いとを記念し、原始キリスト教と失われた療しの力を復活するために、教会を組織することを決議し創立されました。

その後教会は母教会・米国マサチューセッツ州ボストン市所在、第一科学者キリスト教会という現在の形をとるに至り、今日では全世界58か国に3,300以上の教会とその他にまだ正式に組織されていない多数のグループ、また大学キャンパスには約500の大学団ができています」日本での教会は、東京、京都、沖縄にある。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-10
www.nikkeimuseum.org

第三講　エホバの証人

「エホバの証人」の名称の出典は、イザヤ書43章10節である。それは創世記4章にあるアダムの子アベルに始まり、現在までの6,000年間にわたる主の証人たちで、三位一体を否定する彼らは、その証人の長がイエス・キリストであるとする。その創立者は、米国ペンシルベニヤ州ピッツバーグ生まれの小間物商人チャールス T. ラッセル（1852-1916年）である。彼は組合教会に属していたが、青年時代、聖書にしるされている「永遠の刑罰」という言葉で、罪の自覚と良心の呵責に悩み、なんとかそれから救われたいとしていた時、その罪の悔改めと十字架の贖罪を信じるかわりに、セブンスデー・アドベンチスト教会を創立した農夫のウィリアム・ミラーの教説から「地獄はない」という教えを借用し、またミラーの協力者ミセス・ホワイトの「霊魂は不滅でない」を受け入れ、さらに、4世紀の異端アリウスの「イエスは神でない」を借用して、「三位一体」を否認し、イエスは神の子ではなく、神の最初の被造物であるとし、セブンスデー・アドベンチスト教会同様、「生誕前のイエスは、天使長ミカエルであった」とする。従って聖霊が神の第三位であることを否定し、「聖霊は神の見えない活動力である」として、そのご人格を認めない。

しかし、その教理をセブンスデー・アドベンチスト教会より借用したと見られるのを嫌い、異常なほど神経を使って、その無断借用を隠すためにセブンスデー・アドベンチスト教会の他の教理に対しては徹底的に非難攻撃する。また創立者ラッセルは学歴がなく、牧師の資格を持てなかったため牧師職に対しても「非聖書的だ」として非難するが、ここにも創立者の個人的な権威の劣等感の現われが見られる。

また セブンスデー・アドベンチストにならって、ダニエル書の独断的な研究を進め、世界の終末が近いと判断した。ラッセルは24才の時、「キリ

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-11
www.nikkeimuseum.org

ストは1874年に再臨したが、一般人の肉眼には見えない霊体である」と宣伝した。そしてヨハネ黙示録7章以下に出て来る144,000人のイスラエル人と言うのは、われらエホバの証人たちである一と断断し、この世の終わりと同時に、悪魔の手先になっている一般の教会の牧師たちは、この世の政府と共に絶滅させられると宣言して、猛烈に攻撃するのである。ラッセルは1916年11月9日、大陸横断旅行中死んで、彼のあとをルサフォードが継承した。

ヨセフ F・ルサフォードは1914年に第一次世界大戦がぼっ発し、それが深刻化して行くのを見て、「これこそ患難時代に突入した証拠である」として、ダニエル書4章16節以下の「七つの時」を独断的に2,520年と計算し、歴史の年代に数字を合わせたのではなく、その自分の算出した数字に歴史の年代を当てはめるというナンセンスを犯してこれを予言の成就とした。(エホバの証人の著書には、やたらに数字が出て来る。それがほとんど歴史と合致しないデタラメの数字であるが、歴史を正しく研究しない人々にとっては、そのデタラメの数字を予言の成就と信じこまされるらしい。)ルサフォードは、「患難時代に144,000人のエホバの証人の会員がそろうと千年時代がおとずれる」と予言したが、その数を超過しても千年時代が来ないためにエホバの証人は、アベルより患難時代までの主の真の証人であり、その他の同会の会員は、「囲いにいない他の羊」(ヨハネ10:16)である一と、今までの説を改めた。このためにこの会員たちは、自分こそは「他の羊」を多く生み出して144,000人の中に加えてもらおうと願い、熱心に布教活動をしている。

彼らは、「キリスト教ギリシャ語聖書の新世界訳」の聖書をもって会員に教えこみ、正統的キリスト教を徹底的に間違っているときめつけている。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-12
www.nikkeimuseum.org

現在のエホバの証人は、世界に1,658,990人、合衆国には431,179人の会員を持っており、合衆国に5,794の天国会館、全世界に28,407の天国会館（キンダム・ホール）を持っている。世界に伝道している国の数は、95か国である。

エホバの証人の教理の特色

(1) エホバの証人は、神、キリスト、聖霊の三位一体説を否定する。

(2) エホバの証人は、イエス・キリストの神性を否定する。

(3) エホバの証人は、復活に際してイエス・キリストはその人間としての性質を失ない、霊の創造物として蘇ったと信じる。

(4) エホバの証人は、イエス・キリストが1914年に人には見えない霊の創造物として再臨したことを信じる。

(5) エホバの証人は、地獄の存在を否定する。

エホバの証人の日本における活動

日本における　エホバの証人の伝道は、ドナルド・ハスレットをその代表奉仕者として1948年に開始された。合法の法人団体「ものみの塔聖書冊子協会」は、1953年に組織化された。89人の外国人宣教者は、東京、沼津、神戸、新潟、高知の宣教者宅で宣教を行なっている。それに加えて22,000人の日本人奉仕者が奉仕している。教義は、次のようになっている。

エホバは最高の神、天と地の創造者である。生命を受ける者は、みなみ子キリスト・イエスが地上で行なったごとく、エホバを学び、エホバの名を崇めねばならない。イエス・キリストはエホバにより最初に創造されたものである。エホバはイエスを地に遣わしたが、イエスは完全な人になって奉仕し、真理を証言し、死に至るまでエホバへの忠実を

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-13
www.nikkeimuseum.org

第四講　心霊派

心霊派は、人間が死者との交わりを熱心に求めた時からすでに始まっていたといわれる。実際にこの心霊派が宗教として組織されたのは1848年、ニューヨーク州、ハイドビルにおいてフォックス姉妹を開祖として始まったといわれている。フォックス姉妹は、ハイドビルの彼女達の自宅において戸をたたく音を何遍も聞いた。そして彼女達はそれを霊界からの信号と信じ、その通信のコードについて研究し始めた。この霊界との交流が急速に有名になって行ったが、1847年にアンドレー・ジャクソン・ディヴィスが"自然の神的啓示"という本を出版しており、その本の中に心霊派の原理と哲学が記されていて、フォックス姉妹の霊界との交流はディヴィスの本に書いてあることを実証しただけであることが後に明らかになった。

初期の心霊派団体は、小さく、散らばったものであり、又法的には合法的なものではなかった。小さなグループが霊媒のまわりに集まるのが彼らの集会であったが、市内ではそれが次第に大きな集まりになって行った。全国的な団体にまで発展したのは1863年であった。その後1893年に全国心霊派協会がシカゴにおいて組織され、それが今日の合衆国における心霊派の母体となったのである。

この運動は、霊媒によってテーブルが宙に浮いたり、又死者と話しをすることだけではなくて宗教的なものを土台にした教会へと発展して行ったが、全国心霊派協会の原理は、次のようなものである。

心霊派の教理の特色

(1) 心霊派は、無限の智慧を信ずる。

(2) 心霊派は、肉体的、霊的双方の自然現象は無限の智慧の表現

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-14
www.nikkeimuseum.org

であると信ずる。

(3) 心霊派は、このような表現を正しく理解し、生活して行くことによって本当の宗教が生れていくと信ずる。

(4) 心霊派は、人間が死と呼ぶものに変化した後にもその人間は引き続き生存し、その人間の特徴は残ることを信ずる。

(5) 心霊派は、死者との交流が心霊派の諸現象によって科学的に立証される事実であることを信ずる。

(6) 心霊派は、最高の道徳が黄金律の中にあることを信ずる。

(7) 心霊派は、自然の肉体的、霊的法則に従うか従わないかによって自分が幸福になるか不幸になるかが決まるが、それは個人の道徳的責任であると信ずる。

(8) 心霊派は、今も後も人間の魂に対する改革の道は決して閉じることがないと信ずる。

(9) 心霊派は、聖書によって認められている預言の実行は、神からの賜物であり、それは心霊派の諸現象により霊媒を通じて確立され立証されたことを信ずる。

愛としての神の教えが心霊派の中心をなしており、主の祈りが公的礼拝と私的な集会の時に用いられ、キリストを一人の霊媒として認め、布告（お告げ）は霊界からのメッセージで、変貌はモーセとエリヤの霊が具体的な姿であらわれた機会であり、又復活は、すべての人が霊界に生きることの証拠である。人間の魂は、しばしば"星気体"（特に心霊研究などにおいて霊魂と肉体との中間にあると仮定されているもの）と呼ばれる状態にあるが、死によって物質的肉体は消失し、霊体と呼ぶ魂はいくつかの霊界を通過してさらに高度の存在に発展して行く。従い

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-15
www.nikkeimuseum.org

次元の霊界が二つあって低級な性格を持ったものや罪の記録のあるものは死後そこにおいて聖化され、高い霊界に入る準備がなされるが、大抵の人は第三次元の霊界に入る（夏の地と呼ばれる）、その上に哲学者の霊界、更に進んだ霊界、知的霊界、愛の霊界、キリストの霊界等がある。すべての人はやがて高い霊界に達すると心霊派の人々は信ずるが、彼らは父国や地獄あるいは失われた魂があるとは信じない。

礼拝は普通の家、ホール、あるいは教会においてもたれる。大抵の心霊派教会は、祈祷、賛美、心霊派のマヌエル、説教や死者からのお告げが読み上げられる。教会や教師は自由献金でサッポートされ、霊媒による死者との交流がなされる時にはその費用が請求される。現在18万人の心霊派の信者が合衆国にいると報告されている。

心霊派の日本における活動

キリスト教異端の心霊派活動は今のところ報告がないが、日本には昔から死者の霊との話合い、降霊術、呪術、祈つき等の心霊術を信ずる者が多いからむしろその面においては心霊派の先進国ではないだろうか。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-16
www.nikkeimuseum.org

第五講 アームストロング派

アームストロング派の起源は、英国の「神の教会」から直接派生したと考えると、「世界的神の教会」の近代歴史は、1664年、ロードアイランドのニューポートにスティーブン・マムフォードが移住して、新天地（アメリカ合衆国）に最初の「神の教会」を設立した時と考えられる。その後200年以上にわたって合衆国を横断し西海岸まで拡大して行った。1927年、ハーバートW.アームストロング（クエーカー教徒の実業家で、メソジスト派に少し属したことのある）がオレゴン州の「神の教会」の会員となり、やがてオレゴン教区から按手礼を受けて、ユージンに教会を設立する指導者となった。アームストロングは1934年にラジオ放送による伝道を開始した。やがて"明白な真理"と呼ぶ月刊雑誌を発行してウィリアメット村にある教会の会員に配布するようになった。この教会は放送の元の名前で認可を受けた。"神のラジオ教会"とその放送が"明日の世界"と呼ばれるようになった。

本部がやがてカリフォルニア州のパサデナに移り、その地においてこの教会は1947年に「アンバサダー・カレッジ」（後に別々に認可を得た）を創立し、放送網は、アメリカ全土に拡大し、ヨーロッパにも拡がるようになり多くの聴衆を獲得するに到り、教育に重点を置いた第2カレッジを英国の聖アルバンズに、又第3カレッジをテキサス州のビッグ・サンディ（現在の在校生総数1,200名）に創立した。"明白な真理"誌はカレッジにおいて出版され2,800,000部以上を配布している。又カレッジからラジオとテレビの放送も行われている。この教会の登録名は1968年に"世界的神の教会"に代わり、320の教会と85,000人の会員を持つに到った。しかし各地のローカル教会は借用した学校や会館で礼拝を持っているため正確な会員数を知ることは困難である。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-17
www.nikkeimuseum.org

アームストロング派の教理の特色

(1) アームストロング派は、イエスの神性、イエスの贖罪に関するメッセージ、和解、昇天及び再臨を信ずる。

(2) アームストロング派は、三位一体の教理と聖霊の人格を否定する。

(3) アームストロング派は、救いは旧約聖書の律法を忠実に守ることによると信ずる。

(4) アームストロング派は、本当の安息日は土曜日に守られ、日曜日ではないと信ずる。

(5) アームストロング派は、ユダヤの祭礼と食物に関する律法は守られなくてはならないと信じ、又イスラエルの10族は北西ヨーロッパに移住し、主として　イングランド　と英語圏に見られると信ずる。

(6) アームストロング派は、イングランドと合衆国のアングロサクソンは、エフライムとマナセ族の子孫であると信ずる。

(7) アームストロング派は、三位一体の教理を否定し、神は一つの"家族"となり、われわれはすべて神の家族の1員となると信ずる。

(8) アームストロング派は、クリスマスとイースターは異教の祭日であると信ずる。さらに

彼らは、"世界的神の教会"(アームストング派)が唯一の真の教会であり、そこで説かれる福音が本当の福音である。歴史的教会は紀元69年以来誤った教会となったが、アームストロング博士　　と"世界的教会"の出現によって再び真理が顕われることになった、と信じている。"聖書は聖書それ自体で解釈する"と説教するアームストロング博士は、信者から真の聖書の解釈者と認められている。土曜日の礼拝においては"特別な必

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-18
www.nikkeimuseum.org

要の無い限り"献金を集めない。教会は、三つの什一献金によってまかなわれており、会員は、年収入の$\frac{3}{10}$を納める義務がある。その$\frac{1}{10}$は教会運営のため、他の$\frac{1}{10}$は、会員自身の宗教的義務(会員は夏の間8日間は必ず各教区の講習会に出席しなくてはならない)を果すため貯えられ、残りの$\frac{1}{10}$は、"寡婦、みなし子"等を援助するために徴収される。

アームストロング派の教理の中では最近離婚したものの再婚を認めないということが決められ、物議をかもしたが、この教えと第3の什一献金に反対する45名の牧師が、この派を脱会して、別に"神の教会同盟"と呼ぶ団体を作った。"世界的神の教会"の会員は推定85,000名、"神の教会同盟"の会員は4,000名といわれている。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-19
www.nikkeimuseum.org

第六講　モルモン教

モルモン教として知られている"末日聖徒イエス・キリスト教会"は、合衆国のいかなる教会にも見られない最もすさまじい教会歴史をもった団体である。暴徒におそわれたり、時には合衆国の軍隊に攻撃されながら彼らは砂漠の中にすばらしい宗教都市を建設したのである。

モルモン教の起りは本質的には平信徒の宗教運動と考えられ、教会はジョセフ・スミスの幻の中にそのルートがあると云われる。モルモン教が組織されたのは1830年であるが、それより10年前の1820年にジョフセ・スミスは、特異な幻を見た。それは、神とイエス・キリストが彼自身に顕現して、既存のすべての教会は誤った教会であり、真の福音は、まだ元に戻されてはいないがスミスに真の教会、真の福音を再建する使命を託したというものであった。ジョセフ・スミスは、天使に導かれてニューヨーク州マンチェスター付近のカモラと呼ぶ丘の上に埋められた金の延べ棒と平板を発見したが、その延べ棒と平板には、古代の預言とアメリカの古代住民の聖なる記録、及び真の神の言が記るされていた、と云われている。モルモン教によると、アメリカは元々バベルの塔のことで言語が混乱した時散らされたグループの一つであるJaredites が植民した地であり、紀元前600年にアメリカインディアンはエルサレムから移住して来たユダヤ人の直々の子孫であって、イエス・キリストも復活後アメリカを訪れた、と信じている。

ジョセフ・スミスは、金の平板の上に記るされていた古代エジプトの象形文字を"モルモンの経典"に翻訳し、これから"モルモン"という名がつけられるようになった。オリヴァー・カウデリーがこれを筆記した。"モルモン経典"は、モルモン信者からは聖書と同等に権威のあるものと認められており、聖書を支持はするが聖書から移しかえられたものではないと彼らは信じている。ジョセフ・スミスの他の二つの著書である"教理と契約の書"と"高価な

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-20
www.nikkeimuseum.org

真珠"も聖書と同等に権威のあるものと認められている。そしてそれらの本にモルモン教の教えが記されている。金の延べ棒はジョセフ・スミスから天使に戻されたと云われている。これらの本の真実性ということがモルモン教徒以外の学者から問題にされ、モルモン教徒側からはそれらを実際に見たという11名の者達が選ばれてその真実性を辯護した。スミスとカウベリーは"アロンの祭司"に任命され、バプテスマのヨハネからこの二人が互いに洗礼をほどこすよう指令され、残りの者達は、ペテロ、ヤコブ及びヨハネから"メルキゼデクの祭司"に任命された。そして彼らは使徒の鍵が与えられた、と云われている。これが丁度1829年のことであり、教会が6名の会員で創立された前年であった。

モルモン教会が強くなるに従って反対が起こり、彼らは1831年にニューヨーク州を去ってオハイオ州に移動し、カートランドに本部を設置した。もう一つの大きなモルモン教の中心は、ミゾリー州のインディペンデンスであり、そこで彼らは、町の中心にモルモン教の寺院を立てる計画を作った。ところが他の人々との摩擦がはげしくなって遂にモルモン教徒は1838－39年にミゾリー州から追放されて、イリノイ州のナウヴーに移った。そこでも暴動が起こり、ジョセフ・スミスは殺され、教会の預言者とされていたハイラム・スミスは投獄されてしまった。時に1844年のことであった。

スミスの死後、"12使徒の定足数"がモルモン教の議長として受け入れられ、その12使徒の議長にブリガム・ヤングが選ばれたが、選挙に破れた少数派がスミスの正式な後継者ではないと反対しモルモン教会から脱会して他のモルモン教会を組織し、又他のある者たちはジェームス T. ストラングに従いウィスコンシン州に他のモルモン教会を作った。ブラガマイト反対派として最も大きな団体は、ジョセフ・スミスの直々の子孫であるジョセフ・スミス Jr を教会のリーダーと

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-21
www.nikkeimuseum.org

して1860年に"復元末日聖徒イエス・キリスト教会"を組織した。しかしヤングは大多数の投票によって議長に選出され、勇気と有能な管理能力によって教会を完全に分裂から守った。

ヤングは、1846年2月にナウヴーから信徒を導き出し、現在のユタ州に向って行進を始め1847年7月にソート・レーキ・ヴァレーに到達し、そこに有名なモルモン・タバナクルを建設した。1850年にはユタの準州が設けられ、1896年にはそれがユタ州となるに到った。

モルモン教の教理の特色

(1) モルモン経典と聖書が"正しく解釈される限り"モルモン教は、多くの保守的新教の教会と同様の信仰にあると彼らは信じている。

(2) モルモン教は、父、子、聖霊なる神を父と子は人間が触れることのできる肉体と骨とから出来た神で、聖霊は霊の人格化したものと信じている。

(3) モルモン教は、人間は、自分自身の罪で罰かれるが、アダムの罪による審判はないと信じている。(原罪、生得罪を信じない)

(4) モルモン教は、すべての人類は、キリストの贖罪と福音の律法と聖礼典を守ることによって救われる、この福音の律法にはキリストにある信仰、悔改め、犯罪に対する水のバプテスマ、按手による聖霊の賜物及び日曜毎に聖餐式を守ることが含まれている。

(5) モルモン教は、異言、異言の説き明かし、幻、預言及び神癒並びにキリストがイスラエル10族の復帰の後にシオンとエルサレムにあるキリストの首府において地上を統治するために再臨することを信じている。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-22
www.nikkeimuseum.org

(6) モルモン教の末日聖徒は、モルモン教会の生ける議長（預言者）の公布に対してはそれを堅持しなければならないと信じている。

その他にモルモン教では二つの儀式を行っている。それは死者のための洗礼と夫婦・養子などの永遠の縁を結ぶことである。

モルモン教の日本における活動

末日聖徒イエス・キリスト教会は戦後伝道活動が再開されてから現在に至るまで着実な活動と進歩を続けている。1968年の9月より北部極東伝道部を二つに分けて東を日本伝道部とし、西を日本沖縄伝道部としたが、伝道活動の強化と能率化のため、北海道と東北を日本東伝道部とし、日本伝道部内東京横浜の支部をワード部とし東京ステーキ部を組織した。

また日本沖縄伝道部も同様に二つに分け、阪神地区を中心に日本中央伝道部を組織し、広島以西を日本西部伝道部としたのである。

宣教師の総数は620名でワード部数は7、支部数48、付属支部6、伝道地48個所である。会員数は不明。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-23
www.nikkeimuseum.org

第七講 セブンスデー・アドベンチスト
(安息日再臨教団)

セブンスデー アドベンチストは、異端と正統信仰の境界にあるグループで異端研究者の中でもこれを異端に含めるものと含めないものとに分れている。この団体の始祖であるウイリアム・ミラーは1782年米国ニューヨーク州ローハンプトンに生まれ、1849年に68才で死亡している。彼は、彼の理神論から回心して以来、聖書とクルーデンスの語句さく引を熱心に研究するようになった。その結果、再臨の信仰にめざめるようになり遂に旧約聖書ダニエル書8章14節から主の再臨は、ダニエル書9章にある70週あるいはエルサレム再建の年から(457年)計算して1843年、次いで1844年10月にあるとの結論に達した。ミラーの根本的な誤りはここに端を発したのである。再臨の時日は、神の権威の中にあるものであって人間は、誰でも自分でそれをきめる事は出来ない。

ところが1843年にも1844年にも主の再臨はなく、彼らは非常な失望を来し、多くの信者を失った。

使徒の働き1章6,7節「そこで彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ、今こそイスラエルのために国を再興してくださるのですか。」イエスは言われた。「いつとか、どんな時とかいうことはあなたがたは知らなくてもよいのです。それは父がご自分の権威をもってお定めになっています。」

ミラーは、キリスト教の信仰をもち、主がやがて来り給うことを希望しながら、死んで行ったが、彼の失望者達がミラーの死後

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-24
www.nikkeimuseum.org

1843年及び1844年10月22日の再臨に異った解釈を加えて行ったのである。
即ちニューヨーク州のハイラム・エヴスンはある日幻を見たのである。それはイエス・キリストが天の聖所に立っている幻であった。その幻によって彼はミラーが予言した様にイエスは1844年にたしかに再臨されし、予言の日に間違いはなかったが、その場所を間違えたのだと解釈した。1960年セブンスデーアドベンチストは教団を組織し今日に至っている。
現在米国にはセブンスデーアドベンチスト，アドベント・クリスチャン・チャーチ，神の教会，原始アドベント・クリスチャンチャーチと四派があり、信徒数（米国とカナダ）454,091人 教会数3,423教会，914国で予言の声の放送を行っている。

セブンスデーアドベンチストの特異な教理

セブンスデーアドベンチストの特異な教理は四つに大別することができる。

(1) 死後の魂は眠るという教理 (Soul-sleep afterdeath)
セブンスデーアドベンチストは、死後人間は一つの静寂の状態及び全く無意識の状態に入ると信じている。これに対して聖書はこの教理を次の個所で否定している。
(ルカ 16：22～30)（ピリピ 1：23, 24）（コリントⅡ 5：1～8）
（詩篇 73：24）（黙示録 6：9, 10）

(2) 悪しき者の全滅するという教理 (annihilation of the wicked)

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-25
www.nikkeimuseum.org

セブンスデーアドベンチストは、キリストと悪魔との一大闘争が終った時、この宇宙は再び清められて罪や罪人達は完全に一掃されてしまうと信じる。これに対して聖書は次の個所で否定している。
(ローマ 2章6〜9,) (黙示録 20:13) (黙示録 20:10)

(3) 贖罪に関する見解 (View of the atonement)

ミラーはダニエル書8章14節からキリストは1844年10月22日に再臨すると考えた。彼はキリストは地上に再臨しなかったが、ダニエル書8章14節に書いてある聖所にまで来られたと信じるようになった。ここは即ち天国である。ミセス・ホワイトによると天国には二つの所があって一つは聖所で、いま一つは至聖所であると。この聖所において イエス・キリストは罪人のためにその罪の赦しをもとめた。しかし彼らの罪は次然として記録の書に記されている。つまりこの時点ではキリストの贖いは依然として不完全であった。イエス・キリストは天の聖所から罪を取除く務めが残されている。

1844年に、キリストは審判のための調査を始めた。今イエスはキリスト者をしらべ、罪を悔改めキリストを信じて贖いのめぐみにあずかる資格のある者を求めておられる。

そこでキリストは天の聖所に入られ、戸は閉じられているが、このセブンスデーアドベンチストの教理を信じない限り希望は無い。彼々だけが真理をもっているのであるから。

◎ これに対して聖書は次の個所をもって明確に否定している。

イ. キリストは罪の代価を払って信じる者に自由を与え給うた
(マタイ 20:28,) (マルコ 10:45)

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-26
www.nikkeimuseum.org

(ニ) 約束の聖霊降臨は週の初めの日になされた。(使徒 2:1)

(ホ) 同じ週の初めの日に、イエス・キリストの死と復活に関する初めての福音宣教がペテロによってなされた (使徒 2:14)

(ヘ) 週の初めの日に3000人の信者が一ヶ所に集められている。(使徒 2:41)

(ト) 週の初めの日に父と子と聖霊による初めての洗礼が施こされた (使 2:41)

(チ) トロアスにおいてクリスチャンは週の初めの日に礼拝の為に集まっている (使 20:6,7)

(リ) トロアスにおいてパウロは週の初めの日に集まったクリスチャンに説教をしている (使 20:6,7

(ヌ) パウロはコリントにおいて週の初めの日に献金をするようにすすめている (コリント I 16:2)

(ル) 週の初めの日にキリストは、パトモスの島にいたヨハネに現われている (黙示録 1:10)

セブンスデー・アドベンチストの日本における活動

1896年(明治29年)、グレンジャー、大河平両牧師によって始められた。第二次大戦中、同教会の唱道の信仰が治安維持法にかかり、1943年(昭和18年)9月に全牧師と信徒の一部が一斉検挙され、さらに翌年6月には礼拝、集会、伝道の一切の活動は禁止され、教会の閉鎖と解散を命じられた。戦後信教の自由が認められると同時に教会財産は返還され、教勢の拡張に乗り出した。

現在、北海道、北日本、南日本、沖縄の4教区に分け教会の中心に

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-27
www.nikkeimuseum.org

布教活動をしているが、これと並行して、病院、出版所、学校、ラジオ放送、文書伝道などによる働きも活発に進められている。1970年に三育学院短大が認可された。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-28
www.nikkeimuseum.org

第八講　近代主義・自由主義神学

高等批評のはじまりは、ジャン・アストリュック（1684－1766年）の名と結びつく。アストリュックは、18世紀のフランスの医者で、1753年創世記を2つの部分に分けた。かれは、創世記のある個所ではエロヒーム（神）の名が用いられ、他の個所ではヤハウェ（主）の名が用いられていることに気が付いたので、創世記には2種類の文書が資料として用いられているという仮説を立てた。今一人の批評学者、ヨハン・アイヒホルン（1752～1827年）は、聖書は人間的書物として読まれるべきであり、人間的手段によって吟味されるべきである、という断定を下し、こうした研究を高等批評と名づけた。アイヒホルンは、神についていろいろな名前が用いられていることと共に、他の文学的特性にも注目し、その結果、創世記のみならず、6書（創世記からヨシュア記まで）が合成された文書である、と考えるようになった。ヒュプフェルトは、1853年にはじめて、モーセの五書は、モーセが多くの資料から合成した物語というよりか、むしろもろもろの異る著者の作である、と主張した。グラーフとヴェルハウゼンとは、グラーフ・ヴェルハウゼン説で知られている。まことに巧緻な説を立て、これが高等批評学者によって採用された。この説によれば、ヤハウェの名前が用いられている章節が最古の文書Jである。他の著者の手に成る他の個所は、Eの名で知られ、さらに申命記の他の個所はDやPの名で知られている。こうした仕方で、モーセ五書の統一性と、モーセ五書の著者がモーセであるということが否定された。

後の批評学者は、イザヤ書を少くとも二部に分けた。またダニエル書の年代をマカベア時代まで下げたので、ダニエル書は預言と歴史の書というよりも、むしろ歴史書になってしまった。聖書の教理の発達は、進化論の線に沿って説明された。批評学者は、神観念は、原始のシナイ山

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-29
www.nikkeimuseum.org

のあらしの神から，預言者の一神論的な神に発達していったと力説した。しかるに聖書考古学者の研究業績によって，多くの批評学者はこれまでの急進的な立場を放棄することを余儀なくされ，次第に保守的な聖書観を追認するにいたった。

新約聖書の高等批評のはじまりは，通常ヘルマン・ライマルス（1694-1768年）の名と結び付く。ライマルスはハンブルグで東洋語を教えた。そして「断片」（1778年）という著書で，聖書の奇蹟の可能性を否定し，あの奇蹟物語を本気で書いた新約聖書の作者たちは敬虔な詐欺師である，という意見を出した。ライマルスの「断片」を刊行したゴットヴァルト・レッシング（1729～1781年）は，聖書は人間の宗教的発達が原始の段階にある間は，人間の案内者として役立ったが，理性と義務は，進歩した宗教の段階においては，聖書よりも有能な案内者である」と論じた。

フェルジナント・バウル（1792－1860年）は，ヘーゲルの論理を借り，1831年，次のように論じた。すなわち「初代教会の中には律法とメシヤを重視するユダヤ教があった。こうした初期の考え方は，ヤコブの著作の中に認めることができる。パウロは，ローマ人への手紙やガラテヤ人への手紙等でこれと反対の見解を述べた。ここでは律法よりもむしろ恩恵が重視された。二世紀の古カトリック教会は，ペテロの思想とパウロの思想とを綜合した。この綜合は，ルカによる福音書や牧会書簡等に示されている。バウルはさらに進んで，このヘーゲル的な枠の中で新約聖書の各巻のあらわしている傾向が，ペテロ的であるか，パウロ的であるか，綜合的であるかに応じて，年代の古さ，新しさを決定した。新約聖書の各巻の年代を突きとめるに当って，歴史的事実よりも哲学的前提の方が重んじられた。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-30
www.nikkeimuseum.org

後に新約聖書批評は、共観福音書（マタイ、マルコ、ルカ）の執筆の年代順の問題と、ある福音書が他の福音書に、あるいはそれよりもっと古い資料にどの程度依存しているかの問題に集中した。「様式史」の名で知られている最近の研究が教えるところによれば、福音書はキリストについての真理を含んでいるが、われわれは上の真理を包みかくしている伝承や様式の累層をはがしてしまう時にのみ、この真理を見出だしうるというのである。

批評学的な新約聖書観を採用する一部の神学者は、福音の本質はイエスの倫理訓の中にあり、パウロはイエスの単純な倫理的宗教を贖罪宗教に変えてしまった、と考えている。破壊的な高等批評は、多くの人を駆り立てて、聖霊によって霊感を与えられた人をとおして神から来た啓示である聖書の霊感を否定させ、キリストの神性と十字架上で成しとげられた救いの業とを簡単に片づけたり、否定させたりさせた。ダヴィート・シュトラウスの「イエス伝」（1835－1836年）はこうした思想の集大成であった。シュトラウスは、新約聖書の奇蹟や完全性とキリストの神性とを共に否定した。

日本における「新神学」の破壊作用

1874年から1890年頃までの日本の教会は宣教師の純福音信仰を熱心に受け入れ、清新なリバイバルの雰囲気に包まれていた。ところが1885年（明治18年）、ドイツの普及福音新教伝道会からヴィルフリート・シュピンナー（1854－1919年）が、また1887年（明治20年）に同派のオットー・シュミーデル（1858－1926年）が来朝して、はじめて伝えたドイツのチュービンゲン学派の新神学は、日本の教会に広汎な破壊作用を及ぼし今日に至るまで消すことのできない自由主義の刻印を押しつけた。かれらは月刊雑誌「真理」を発行し、日本の教会が未だその何たるかを知らなか

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-31
www.nikkeimuseum.org

った聖書批評学を移入し，従来の米英宣教師の超自然的正統的福音理解を科学的精神の名において嘲笑し，自由主義，歴史主義を鼓吹し，聖書の霊感信仰を破壊した．1889年京都の同志社で開かれた基督教青年会の第1回夏期学校で，小崎弘道は，「聖書のインスピレーション説」と題して講演し，聖書の無謬を作り，高等批評を大体において容認した．海老名弾正はこれに賛成したが，同志社のデーヴィスはこれに抗議して聖書の無謬を擁護し，金森通倫，横井時雄らもデーヴィスに同調し，結局小崎説は異端説と認められた．ところが1891年（明治24年）金森は「現今及び将来の基督教」を著して自由主義神学に転向し，横井も1894年（明治27年）「我国の基督教問題」を著して金森に続き，両者は逐に信仰の動揺を来し，実業熱にとりつかれ，一時牧師をやめて，実業界に入った．このような指導層の動揺と共に，一般信徒の間に広汎な信仰の動揺が起り，多くの教会員が教会を棄てた．

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-32
www.nikkeimuseum.org

第九講 世界基督教統一神霊協会

世界基督教統一神霊協会の創始者である文鮮明は、1920年に韓国において出生している。文鮮明が16才の時、イースターの朝イエス・キリストが個人的に彼に顕われて彼に特別な黙示を与えたといわれている。その黙示の内容は、「神の摂理を成就・達成するための重要な指命であるそうである(危機にあるキリスト教、117頁)

韓国が北朝鮮と分断されてしまった時、彼は共産党の労働キャンプに収容されていたが、1950年国連軍が上陸した時にその収容所から解放され、彼は1人の友人を背におって自転車に乗り600マイルの道を釜山まで走破したそうである(120頁)。

1954年に文鮮明は統一教会を正式に組織したが、その正式な名は「世界基督教統一神霊協会」である。現在世界40ヵ国以上に支部があり、世界の120以上の都市に教会があると報告している(危機にあるキリスト教、120頁)。

文鮮明は何故アメリカ合衆国において講演をしているか? その理由は、彼はアメリカが「再臨の主」の働く基地となると信じているからである。「世界の終末は、再臨の主の来り給う時が間近に迫っていることを示している」と彼は述べている。彼はどこかにその基地を得なくてはならず、彼は与えられた使命を果すことのできる基地を用意しなければならないからである。ワシントンD.C.において文鮮明は「世界救済の運動はこの国から始まらなくてはならない」と語った。アメリカが基地であり、アメリカがその使命を果たす時には、アメリカ人は永遠の祝福を得るであろう」と語った。このことが文鮮明がばく大な財産を合衆国特にニューヨーク

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-33
www.nikkeimuseum.org

州に持っている理由を明確に説明している。文鮮明は合衆国の各地を回って多くのアメリカ人に自分の見解を聞いてもらうようにつとめているのである。

文鮮明の聖書観

文鮮明は、歴代のキリスト教が受け入れてきた信仰、特に聖書に関する信仰を持っているであろうか？ 統一教会の機関誌である「原理講論」によると「聖書は真理それ自体ではなく、真理を教示してくれる一つの教科書である。新約聖書は今から二千年前心霊と知能の程度が非常に低かった当時の人間たちに真理を教えるためにくださった一つの過渡的な教科書である。教典というものは、それ以上に「明るいともしび」が現れたとき、その使命は終るのである」

聖書の真理は、文鮮明を導く必要はない。それは、彼は自身をそれ以上に「明るいともしび」だと考えているし、文の運動は、彼が見たという神からの特別な啓示を土台としているからである。前述したように彼はイエス・キリストとバプテスマのヨハネと語ったことがあると述べている。ニューヨーク・タイムズ誌によると、文鮮明は、イエス、モーセ、しゃか及びその他の聖書の中にある聖徒達と語ったことがあるそうである（1976年5月30日号 19頁）。

文鮮明の神観

文鮮明は、神は全知であると引用しているが、文鮮明の語から彼は神を全知とは信じていないことは明白である。文鮮明は、キリストの苦難とキリストの栄光に関する二つの線の預言を説明

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-34
www.nikkeimuseum.org

して次のように語ったことがある。即ち神は、キリストが救主に関する摂理に対してどのように答えるべきか知らなかったので、彼は二つの矛盾した結果について、二重の預言で、人がどちらでも選ぶことのできる預言を公布しなければならなかったのだ」。キリストの信仰は、この二つの預言のどちらをも自分の決心によって選ぶことができたのである（危機にあるキリスト教、103頁）

この声明でわかるように文鮮明は、神の全知であることもキリストの行動が神の道を追まれたということも信じていないことがわかる。もしイスラエル人がイエスを救主として受けいれていたら宗教の主の預言が達成されたと云い、もしイスラエル人がイエスを拒否したら苦難の主の預言が達成されたことになるというのである。

文鮮明のキリスト観

イエスキリストの人格と働きをその団体がどのように信ずるかとの問いは極めて重要なことである。特にイエス・キリストの神性について然りである。文鮮明は次のように述べている「イエスは神が受肉した人間であるが彼は神自身ではない」と。

文鮮明は、「神はイエスを第2のアダムとしてこの地上に送った。それ故彼は第2のエバと結婚することができて罪の無い子孫を生むことができた。神はイエスにこの地上に罪の無い子孫を生ませたいとの願いをもっていた。そしてイエスとその花嫁は人類の真の両親となることができた」と語った。

イエス・キリストは、初めにこの地上に来臨した時、このことを達成できなかったので再臨の時には第3のアダムとして来ると文は信じているが

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-35
www.nikkeimuseum.org

創世記の最初の部分にあるところを文鮮明は次のように解釈している，即ち「生命の樹」は人類を象徴し，善悪を知る「智慧の樹」はエヴァを象徴していると信じている，そして創世記3章を象徴化する過程を通じて彼は次のような結論に達した，エヴァを誘惑した蛇はユダ書の6，7節から天使であったが不自然な不道徳行為によって墮落してしまった，と．

文鮮明によると，エヴァは誘惑されて，この天使と性的な関係を結んでしまった．アダムとエヴァは神を中心として永遠に夫と妻の関係にあるべきであったが，その成長の過程でこの天使長と姦通の罪を犯してしまい，アダムも同様に墮落してしまったのである，そのような不義の関係がアダムとエヴァをサタンを中心とするものとなし，肉体的墮落の原因となったのである．

文鮮明は，「救いを罪の無い状態への復帰」であると信じている．彼は「罪に墮落した人間を救うことは，人間が最初にエンジョイしていた罪の無い元の状態にもどすことを意味する，と述べている．それゆえ救いに関する神の攝理は，「復帰の攝理である」と．この復帰は，完全な子孫を生み出す真の両親になることに関係があるとしている（集団結婚の理由がここにある）．

文鮮明は，預言について余り多く語らないが，聖書の預言を普通の感覚でとらえようとはしない．例えばイエス・キリストが語ったマタイ24:29「これらの日の苦難に続いてすぐに，太陽は暗くなり，月は光を放たず星は天から落ち，天の万象は揺り動かされます」を解釈して彼は「皆さん，どうぞ安心して下さい，これらのことは文字通りに起こることはありません，神は宇宙にあるものは何も破壊するようなことはなさいません．神はしばしば真理を象徴や比喩で語り給うので，これらのことは象徴的に達成されるだけです」と述べた．

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-36
www.nikkeimuseum.org

それゆえ，文鮮明は、黙示録 21:1 にある「新天 新地」を文字通りには信じていない．又 IIペテロ 3:12 にある「火の審判」に関して彼は「この句は象徴的に解釈すべきで神はこの地上を破壊するようなことは無い」と述べている．

文鮮明は，強い反共産主義の立場にあるので マタイ 25 にある「羊」と「山羊」を「自由世界」と「共産国」というように解釈している．

文鮮明の信者達は「真の両親」について 文鮮明夫妻を「真の両親」と信じており，文自身も「真の父」「真の母」というように演説している．文は時に自分を 新しい救主とは言っていないが，彼は 新しい救主が 1920年にそして 彼が生れた同じ場所で生まれた」と信じている，ということは，彼が新しい救主である，ということを意味する．

文 鮮 明 の 誤 り に 対 し て

(1) アダムと エヴァの 墮落についての 正しい 聖書の解釈は ロマ 5:12 にある．

(2) キリストの 贖罪についての 正しい 聖書の解釈は ヨハネ 1:29，10:17，18　5:24　エペソ 1:22，23，エテサロニケ 4:17 にある．

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-37
www.nikkeimuseum.org

第十講
カトリックの教義と聖書の教

聖書観

カトリック教会の教え

1229年トレード会議は聖書を「禁書の表」の中においた。これはカトリック信者が読む事を禁じられている書物の表である。

聖書は神が神の教会になされた唯一の啓示の神学的源泉ではない。聖書と相並んで言い伝えがある。(カトリック百科辞典15巻7頁)

ガール・アダムは其の著『カソリシズムの精神』において、カソリシズムは原始キリスト教と同一視せられる事は出来ないと言っている。『我ら天守教徒はいささかも恥ずる事なく、否むしろ誇りを以て、カソリシズムが原始キリスト教と、否キリストの福音とも同一視せらるる事が出来ない事を認する。それは恰も大いなる樫の木が小さいドングリと同一視せらるる事が出来ないのと同様である。そこには機械的同一はなく、唯組織的同一があるばかりである。多くの年を経るにつれカソリシズムは、恐らく教義に於いて、道徳に於いて法則に於いて、又礼拝に於いて現代よりも一そう盛んに、一そう豊富に又一そう多くの種類を持つに至るで

聖書の教え

「この書はキリスト・イエスを信ずる信仰によりて救に至らしむる智慧を汝に与え得るなり。」(テモテII 3:15)

「我は福音を恥とせず、この福音はユダヤ人を始めギリシャ人にも凡て信ずる者に救を得さする神の力たればなり。」(ロマ書 1:16)

「汝らはおのれの言伝えを守らんとて、能くも神の誡命を棄つ」(マルコ 7:9)

「かく汝らの伝えたる言伝によりて神の言を空しうし、又多く此の類の事をなしおるなり」(マルコ 7:13)

「汝ら心すべし、恐らくはキリストに従わずして人の言伝と世の小学とに従い、人を惑す虚しき哲学をもて汝らをうばい去る者あらん」(コロサイ 2:8)

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-38
www.nikkeimuseum.org

煉獄

カトリック教会の教え

『これは此の世と天国の間に於ける中間的状態である。そこで霊が罪滅しの苦業をする事に依ってパラダイスに入る資格を与えられるのである。ここで彼らは赦さるべき罪から清められ、死めべき罪による一時的刑罰を受け、然る後に天国へ受け入れられるのである』

もし神は常に罪人の凡ての罪を取り除き、又悔改めた者の満足は、キリストが彼らの贖いの為に一切をなし給うたという信仰に他ならないと言う者があったならば、その人は呪わるべし。

（トレント第十四議会十二項）

トーマス・アクイナスは人間の原罪と霊的な報いに就いて次のように言っている。『斯くて霊魂がその犯した罪の故に直ちに受けるべき報いを控えられる処である煉獄が存在する。斯くて我等の父祖達が未だその罪を贖われていない為に深淵に陥る事を控えられる所である獄がある』

獄

聖書の教え

神の御言は一言半句も煉獄について語っていない。イエスと共に十字架につけられた盗賊の一人に対するキリストの言葉は、明白に煉獄のような場所の存在を否定している。

『また言う「イエスよ御国に入り給うとき我を憶え給へ」イエス言い給う「我誠に汝に告ぐ、今日汝は我と偕にパラダイスに在るべし」』

（ルカ 23：42～43）

「この故に今やキリスト・イエスに在る者は罪に定められる事なし」

（ロマ 8：1）

パウロは死に臨んで煉獄ではなく、ピリピ書1章23節にあるように主と共に在る事を期待した。

『我はこの二つの間に介まれたり。我が願は世を去りてキリストと偕に居らん事なり、これ遥に勝るなり』

「之は清められる者を一つの供物にて限りなく全うし給うなり」

（ヘブル 10：14）

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-39
www.nikkeimuseum.org

『一年の中で司祭の最も利益のある働きは、死者を煉獄より逸り救けるように特別に彼等のために祈禱を捧げる事である。毎年十一月の聖魂の月に於て「人望のある司祭はこの職務を行う事により数百ドルも余分の収入がある様である。……」
三人の祭司によって行われる高級ミサに対しては35ドルから40ドルを支払われるが、その所要時間は約一時間である』

（ポール・ブランシャード著
『アメリカの自由とカトリックの力』
37頁）

『初代教会は全然、煉獄について知らなかった。紀元593年に発表されたカトリックの煉獄に対する論議の中には、我らの罪の為に流されたキリストの血が罪を贖う為に充分でないという事を言っている。』
これは聖書の明白な教えに反している。』

『もし神の光のうちに在すごとく光のうちを歩まば我らと互に交際を得、又其の子イエスの血凡ての罪より我らを潔む。』

（ヨハネ I 1:7）

「もしその罪を言い表わさば、神は真実にして正しければ、我らの罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給わん」

（ヨハネ I 1:9）

◎ 神の御言は『凡ての罪より我らを潔む』及び『凡ての不義より我らを潔む』と述べている。
聖書は死を伴る罪より潔め、そして我らが殺りの罪より潔められるために煉獄に行かねばならぬとは言っていない。
煉獄説はキリストの贖罪を冒涜するものである。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-40
www.nikkeimuseum.org

独身生涯

カトリック教会の教え

362年ガングラの地方会議が召集せられ、カトリック僧に対して独身生活を教えていたユウタシウスと其の弟子達に裁決が与えられた。

此の会議は当面した問題に関する正統信仰を定義づける為に幾つかの事項を定めた。之等の事項がカトリック教会によって権威あるものとして受け入れられたという事は、この事がグデオニシウスやイシドールの集めた書籍の中に記されている事からして明白である。之等の事項は、結婚した司祭の聖礼典を執行するのを禁じ、又結婚の故にその司祭は職務を行う事を得ずと固執する凡ての人を痛烈に非難している。

（H・C・リー著
「司祭の独身生涯の歴史」58頁
59頁）

ガングラ会議の裁決は、後になり転倒せられるに至った。グレゴリー七世は、カトリックの僧によってなされた凡ての結婚は無効なりと宣言した。即ち「この種（僧侶）の人々に依って契約せられた結婚は破棄せられなければならない」というのである。
（第一回ラテラン会議、1123年21項）

聖書の教え

「それ監督は責むべき所なく一人の妻の夫にして……」
（テモテ I 3：2）

ペテロは結婚していたが、キリストはその事を以て彼が弟子になる資格はないとは言い給わなかった。
「シモンの妻の母熱をやみて臥していたれば……」
（マルコ 1：30）

「されど御霊あきらかに或人の後の日に及びて惑す霊と悪鬼の教えとに人つを寄せて信仰より離れん事を言い給う。これ虚偽もいう者の偽善によりてなり。彼らは良心を焼金にて焼かれ婚姻する事を禁じ食を断つ事を命ず。されど食は神の造り給える物にして、信じかつ真理を知る者の感謝して受くべきものなり」
（テモテ I 4：13）

初代教会は使徒たるとも弟子たるとを問わず、信者の結婚を禁じなかった。同様に肉を食する事も制限しなかった。（但し偶像に献げたものを除く）

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-41
www.nikkeimuseum.org

カトリック教会は司祭及び尼僧に結婚を禁じ、又金曜日には魚の他肉を食する事を禁ずる。

前に述べた御言が、人の言い伝えを重んずるカトリック教会に適用される事は明白である。

マリヤへの崇敬

カトリック教会の教え

ローマカトリック教会はマリヤは神に非ずと教える。然しながら世紀を経るにつれて、彼女はカトリックの独断的教義によって崇められるに至った。

遂に1854年に至り法王ピアス九世は処女マリヤが凡ての原罪より保護せられていたという新しい教理を公布した。

『神に依って与えられた特別なる特権と恩寵である彼女の受胎は人類に於いて最初の出来事なるを以て、処女マリヤは原罪の凡ての汚れより除外され、保護せられた』

(ピアス九世 12月8日 1854年)

聖書の教え

聖書はマリヤの崇敬に就いて何も語っていない。そして凡ての人罪を犯したりと明白に宣言し、此の中にマリヤをも含めている。

『凡ての人罪を犯したれば神の栄光を受くるに足らず』(ロマ3:23)

『マリヤ言う「我が心主を崇め我が霊は我が救主なる神を喜びまつる」』(ルカ1:46~47)

マリヤは同じく救主を必要とする。何となれば彼女も亦罪人であるからである。

我等はキリストがマリヤに他の何人にも勝った地位を考え給わなかった事を聖書に依って知る。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-42
www.nikkeimuseum.org

『群衆イエスを環りて坐したりしが、或者言う、「視よ汝の母と兄弟姉妹と外にありて汝を尋ぬ」イエス答えて言い給う「わが母わが兄弟とは誰ぞ」かくて周囲に坐する人々を見回して言い給う「視よ、こは我が母わが兄弟なり。誰にても神の御意を行うものは是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり」』

(マルコ 3:32—35)

『それ神は唯一なり。又神と人との間の中保も唯一にして、人なるキリスト・イエス是なり。』

(テモテ I 2:5)

ピアスナー世は布告して言う。『善きカトリック信者は何人といえども処女マリヤは神と人との執成者なる事を信ずべきである』と。

(1931年12月25日付 週報)

(89頁)

枢機卿アルホンセ・ラ・リグオリは、其の著『マリヤの栄光』に於いて大僧正ヘイグの認可を得て次の如く記している。

『マリヤは誠に罪人を神との間に存する平和の執成者とされた』

(75頁)

『マリヤに依り頼まないものは陰滅し、且つ失われる』 (89頁)

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-43
www.nikkeimuseum.org

『マリヤによらずば救いの道は何人にも開かれない……マリヤに守られるものは救われ、然らざるものは亡ぶ』
(117～118頁)

『他の者によりては救を得る事なし天の下には我らの賜りて救わるべき他の名を人に賜いし事なければなり』
(使徒 4:12)

法王権

(誤謬絶無論に至ってその頂点に達した)

カトリック教会の教

法王が教師の風光を以て語ったり、信仰並びに道徳の事柄に就いて定義を与えたりする場合には、絶対に誤謬が無いという教理が幾世紀にも亘って法王が神の権威を横領するという基礎を造り上げた。神の言に照して見れば、法王が神の権威を詐取したという事は明白である。これは1302年の法王教書に於けるボニファエス八世の言に見られる。即ち、

『新に ローマ法王に服従する事があらゆる人間にとって救を得る為に全く必要である事を宣言し、発表し、又為に定義する』

1870年に至るまで法王絶対無謬説は啓示された教理として示されていなかった。キリスト降誕後殆んど1900年を経て、カトリック教会が聖書に何等権威をもたない所の此の教理を唱えるとは実に不思議千万な事ではないか。

聖書の教え

『又導師の称を受くな、汝らの導師は唯一にして、即ちキリストなり』
(マタイ 23:10)

『而して彼はその体なる教会の首なり、彼は始にして死人の中より真先に生れ給いし者なり、こは凡ての事に於きて長とならん為なり』
(コロサイ 1:18)

如何にカトリック教が上述の聖句に相反したものであるかは、歴史家サムプルの言の中に示されている。彼はローマの僧侶が自らを高くしてその極端に達している事実に対する警戒力を我々に与えている。即ち此の虚偽の制度の権力はしすべての下に於いて其の頂点に達したのである。その時聖なるローマ

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-44
www.nikkeimuseum.org

カトリック僧侶は此の事に気付いている。何となれば、カトリック百科全書に次の如く書いてあるからである。

『バチカン会議に依って定義づけられた教理的用語を以て、法王の超越又は絶対無謬性が形式的に初めて教会間に承認せられていたとは言いがたい』

（カトリック百全第七巻 クラク頁）

法王は皇帝も彼等の冠を彼の足下に捧げ、又地方領主にも自分を神として呼び掛ける様に強制した。

ラテラン会議に於いてペトラルカの大僧正スデパノは、レオが天上天下に於ける凡ての権に勝る権を所有すると宣言した。斯くて彼を神以上に崇めたのである。

これは同会議に於いて法王を地上の神と称したマルセリウス以上の宣言である。（サンプル著『宗教改革の光明』18頁）

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-45
www.nikkeimuseum.org

第十一講 異端発生の原因とクリスチャンの態度

「私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださった方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるのではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです」(ガラテヤ 1:6,7)

「ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです」(Ⅱコリント11:4)

「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう注意しなさい」(コロサイ 2:8)

「さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません」(ヘブル 13:9)

「イエスを告白しない霊はどれ一つとして神からでたものではありません」(Ⅰ ヨハネ4:3)

上述の聖句のように「異端」の発生は今に始まったことではなく、初代キリスト教会の時代からパウロやヨハネや他の使徒たちの心を悩めた重大な外敵であった。この外敵の発生には様々な原因もあると考えられるが、その背後に「暗黒の勢力」といわれるサタンの巧妙な操作のあることを忘れてはならない。「異端」はしばしば悪性のバクテリアにたとえられるもので、健康な体内に入りこんで一夜にして病人にしてしまうこともできるし、はては死においやることもできる。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-46
www.nikkeimuseum.org

病人に対して賢明な医者は、先づ適切な診断を下し、そのバクテリアを死滅させるための正しい薬を処方する。その適切な診断を下すためには幾つかのテストが必要である。そのテストを挙げてみると

(1) 霊魂が救われるため、神のひとり子とその十字架の代償的犠牲に頼る必要があるといったかどうか。

(2) プログラムに彼らの身許を隠しているかどうか。すなわち所属教派についてことさら沈黙していないか。

(3) 彼らは聖書を最上の霊的権威、また正しく神の御言とみとめているかどうか。

(4) キリストの肉体的復活の教理があるかどうか。また一般的復活問題を論じているかどうか。

(5) イエス・キリストを三位一体の第二位、御子なる神、神の永遠の御子として述べているかどうか。

次に医者による正しい薬の処方とは何であろうか。それは申すまでもなく聖書の中にある適切な聖句である。理屈に対して理屈で応答し、たとえその理屈で勝ったとしてもそれは本当の勝利にはならない。適切な聖句の前には何一つ勝利の道はないのである。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-47
www.nikkeimuseum.org

付録1　信条及び信仰箇条

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人の内よりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来りて生ける者と死にたる者とを裁きたまわん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン。

ニカヤ信条

我らは、天と地と、すべての見えるものと見えざるものとの創造者にして、すべての主宰を行ったもう父なる、唯一の神を信ず。
我らは、唯一の主、イエス・キリストを信ず。主は神の独り子、万世のさきに御父より生れたるもの、光よりの光、真の神よりの真の神、造られずして生れ、御父と本質を一つにし、万物は彼によりて造られたり。主は我ら人類のため、また我らの救いのために天よりくだり、聖霊によりて処女マリヤより肉体を受けて人となり、我らのためにポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書によりて三日目によみがえり、天にのぼり、御父の右に座したもう。主は生ける者と死にたる者とを裁くために栄光をもって再び来りたもう。その御国は終ることなし。
我らは、主にしてかついのちを与えたもう聖霊を信ず。聖霊は御父よりいで、御父と御子とともに礼拝せられ、ともに栄光を帰せられたもう。また聖霊は、預言者たちによりて語りたまえり。
我らは、使徒よりの、唯一の聖なる公同教会を信ず。
我らは、罪のゆるしのための唯一のバプテスマを信じ認む。
我らは、死者の復活と、来るべき世のいのちとを待ち望む。アーメン。

信仰箇条

本ソサエティの信仰箇条は、以下のとおりである。

(a) われらは、聖書を一言一句、霊感による誤りなき神の言であり、かつわれらの信仰及び行為に係わる一切の事柄における最高の権威であると信じる。

(b) われらは、父、子、聖霊の三位にして唯一の永遠の神を信じる。

(c) われらは、主イエス・キリストの神性、処女降誕、奇蹟、カルバリー山上におけるわれらの罪のための死、墓からの可視的復活及び近き将来における再臨を信じる。

(d) われらは全ての人がイエス・キリストの救いの恩恵無しには罪の中に失われたものであり、救いの提供を拒む者は永遠の刑罰を受け、信じる者は、生死の別無くキリストの再臨の時、永遠の生命に勝えることを信じる。

(e) われらは真（まこと）の教会は、キリストの罪のための代償的な死を信仰をもって個人的に受け入れた者によって構成されるものであることを信じる。

(f) われらは、クリスチャンの生活及び働きのために信者に内住し、又力を賦与し給う聖霊なる神の実際の働きを信じる。

(g) われらは、主イエス・キリストにある真の信者には、すべて霊的な一致のあることを信じる。

(h) われらは、伝道がクリスチャンの責任の重要な部分であると信じる。

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-48
www.nikkeimuseum.org

付録 2. 引用文献

ウォルター・R・マーチン「現代の異端」
パウロ B スミス「異端について」
井出定治「異なる福音」
J. K. Van Baalen「The CHAOS of CULTS」
Walter R. Martin「The KINGDOM of the CULTS」
森山 諭「エホバの証人」のまちがい
D. キール「カトリックの教義と聖書の教」
E・ケアンズ「基督教全史」
WM C. Irvine「Heresies Exposed」
Frank S. Mead「Handbook of Denominations」
キリスト新聞社「1975年基督教年鑑」
Harold J. Berry「Moon's Unification Church」

Source: Nikkei National Museum, 1995-125-2-36-1-49
www.nikkeimuseum.org